

今さら聞けない血液検査

血小板凝集の確認について



血小板凝集を疑う時・・・



- 自動分析装置から血小板凝集のエラーが表示された場合。
- 前回値よりも明らかに低値を示した場合。
- 平均血小板容積(MPV)や血小板分布幅(PDW)が大きい場合。
- 初診などで血小板数が低値であった場合。
- 担当医より目視依頼があった場合。

血小板凝集はなぜ起こる？

A red line graphic that starts as a horizontal line and then zig-zags upwards across the top right of the slide.

- 採血時に組織トロンビンが混入した。
- 採血後に試験管への分注に時間を経過した。
- 試験管分注後にEDTAとの混和が不十分であった。
- EDTA依存性偽血小板凝集。
- DICなどの凝固過剰状態であった。

血小板凝集の定義は？



血小板凝集の定義については日本臨床衛生検査

技師会血液形態検査標準化ワーキンググループ

の血液形態検査に関する勧告法によれば、**5個以上**

の血小板凝集している場合に記載する必要とあります。

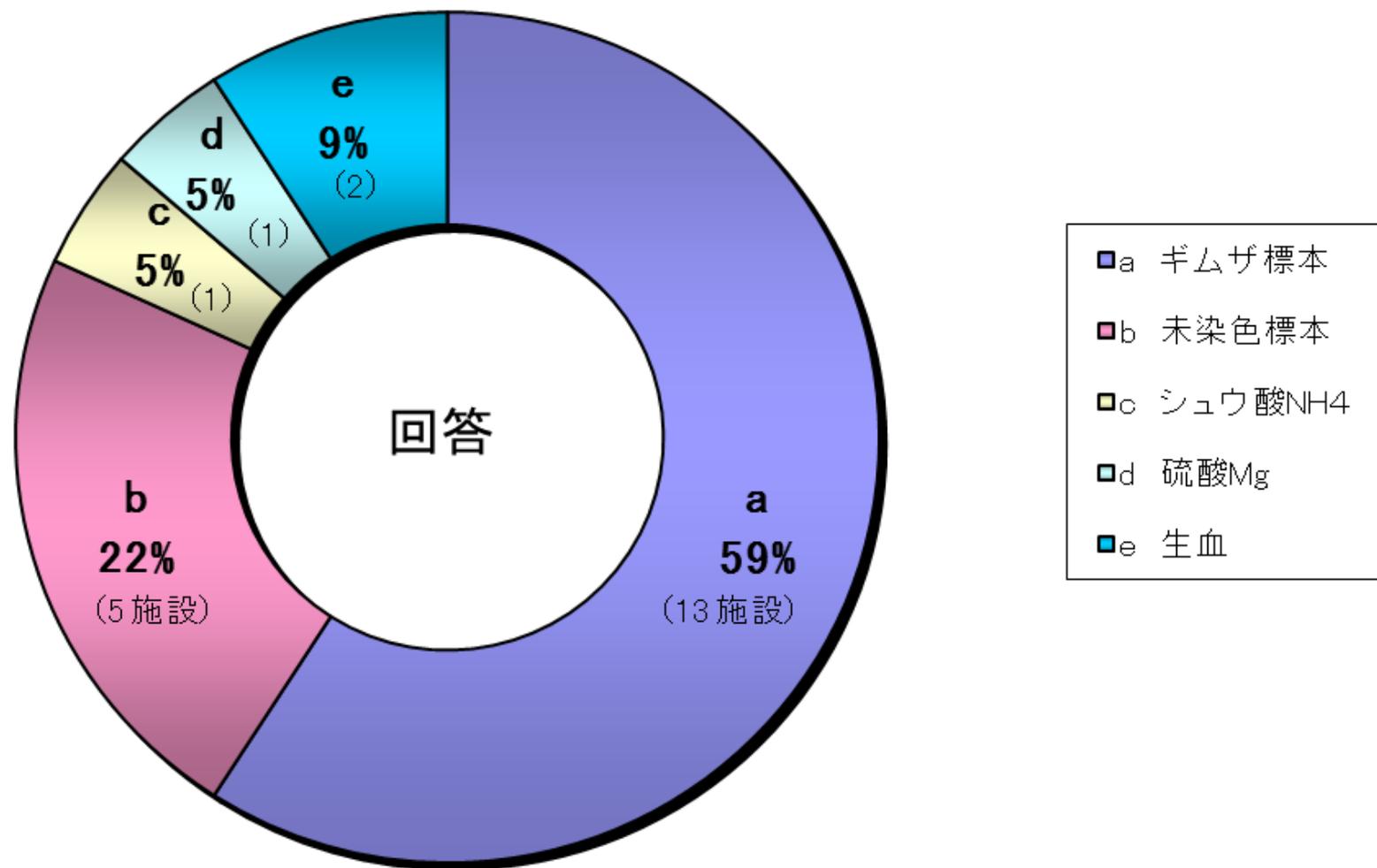
医学検査45巻11号 Page1659-1671(1996.11)

血小板凝集の確認方法は？

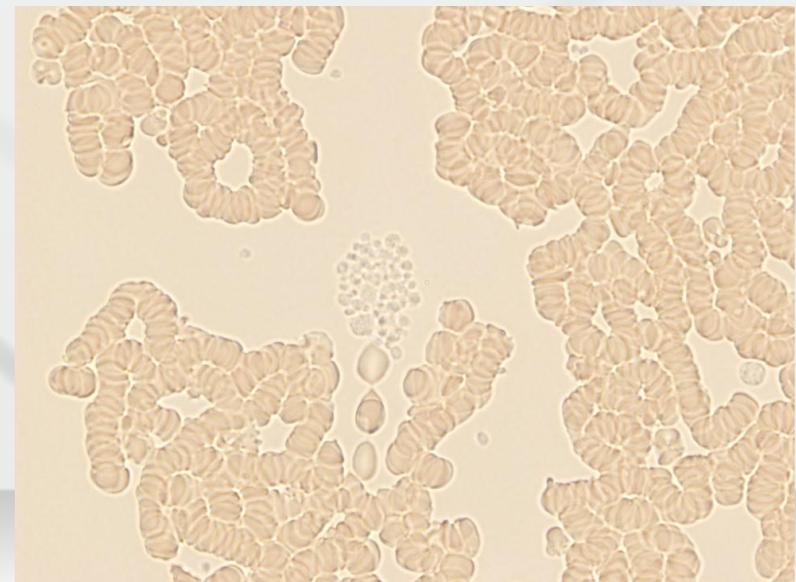
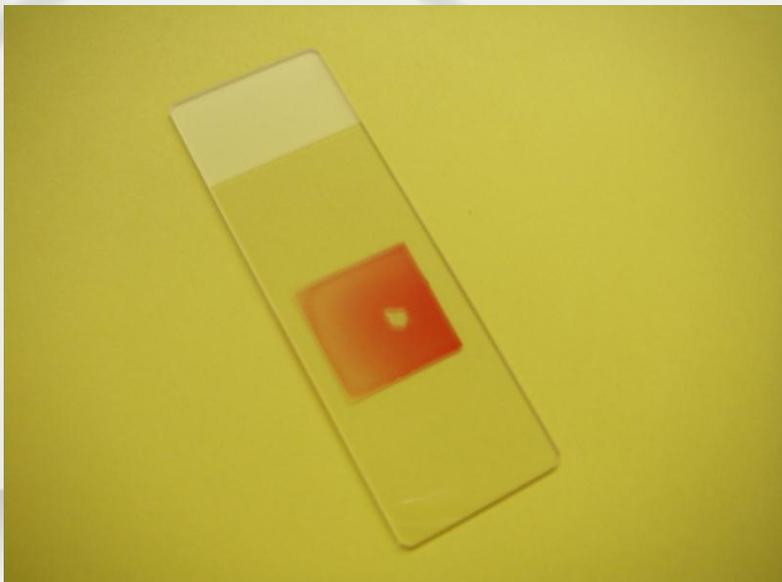
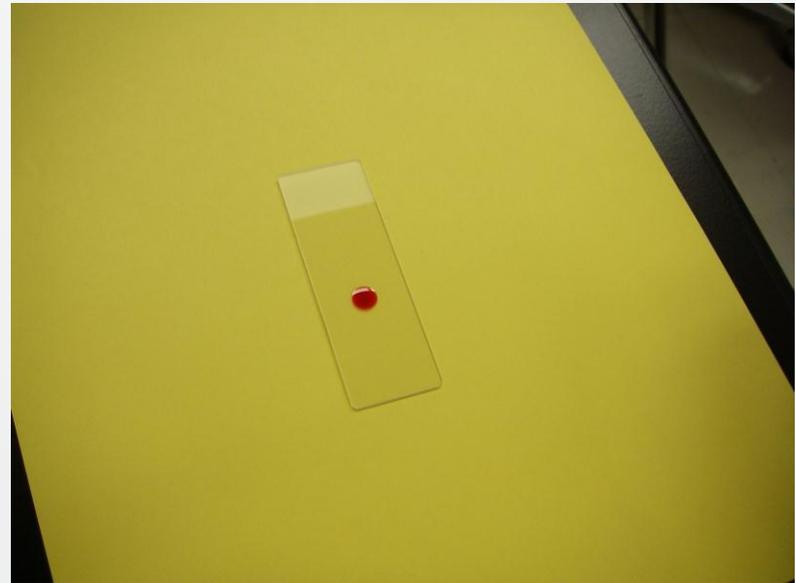
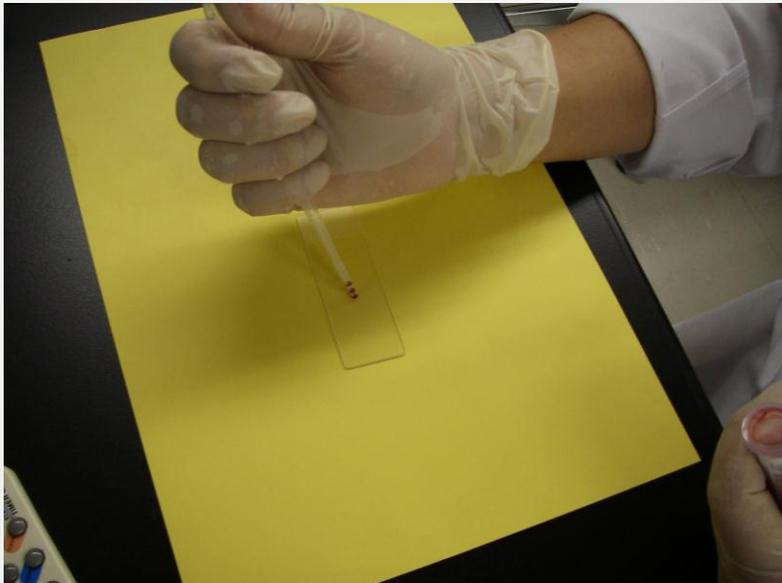
- a. 血液標本作製して、ギムザ染色で確認。
- b. 血液標本作製して、未染色で確認。
- c. 1%シュウ酸アンモニウムで溶血させて確認。
→ (Brecher-Cronkite法)
- d. 14%硫酸マグネシウムで希釈して、血液標本作製して確認。
→ (Fonio法)
- e. スライドガラスに血液を滴下し、カバーガラスをしてから確認。
- f. その他

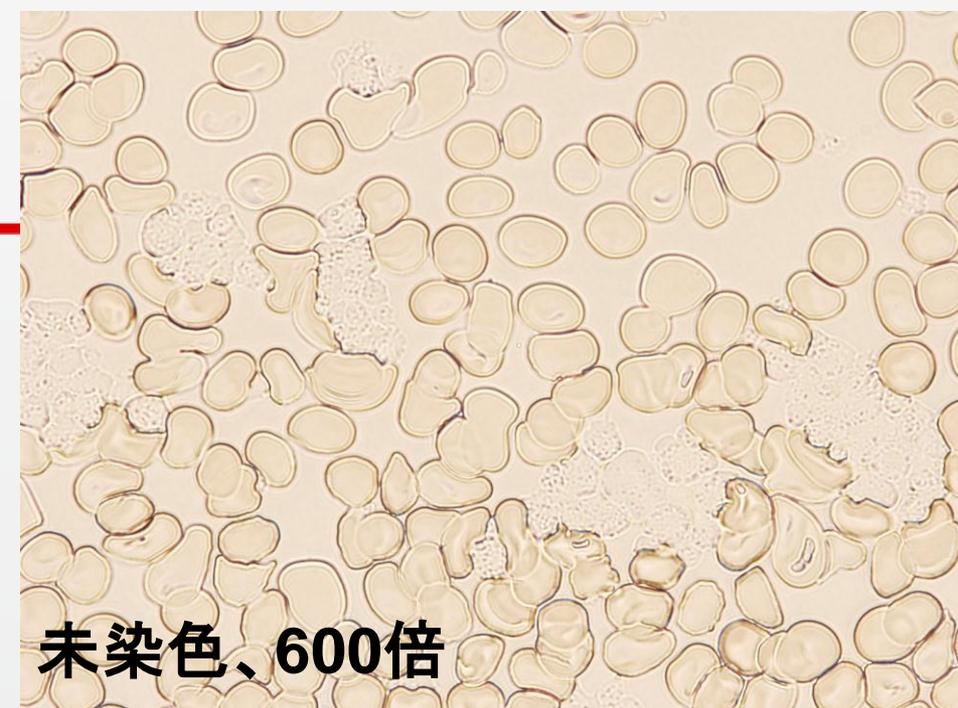
血小板凝集の確認方法は？（集計結果）

血小板凝集確認方法

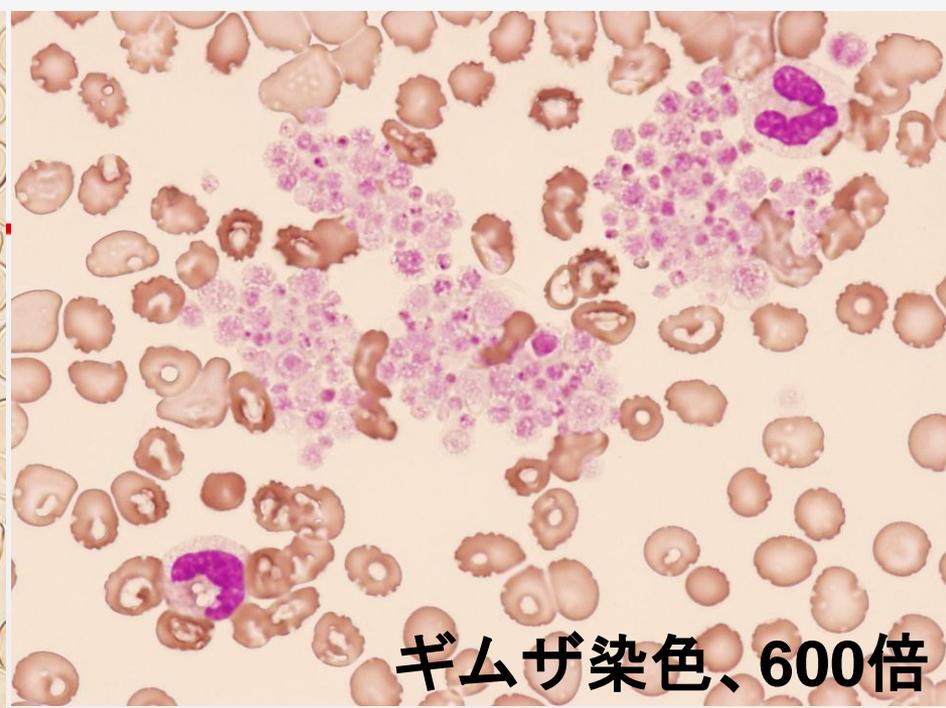


血小板凝集の確認について(カバーガラス法)

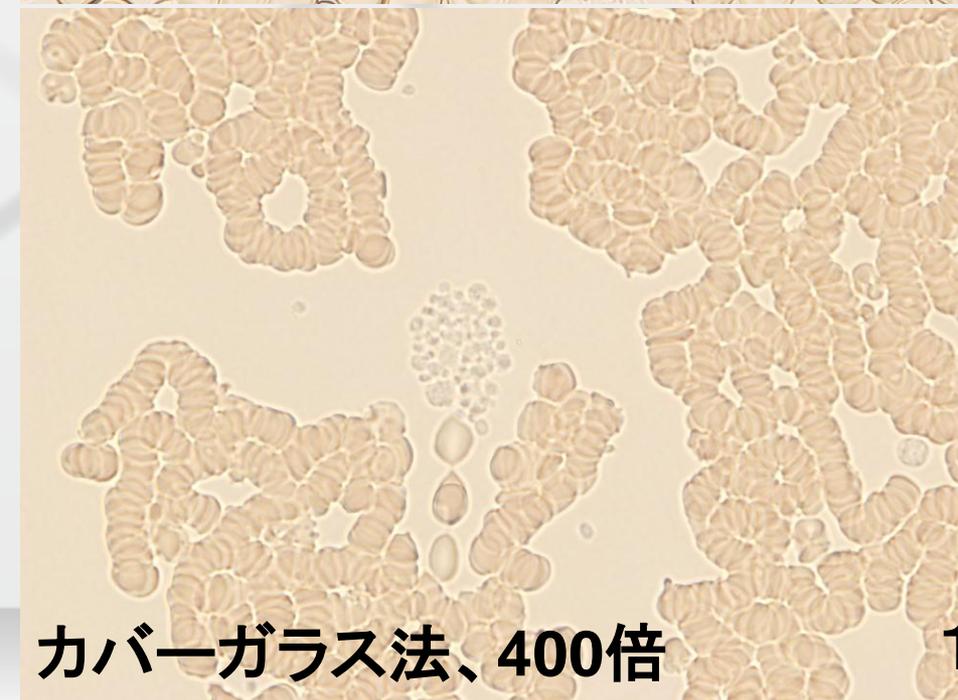




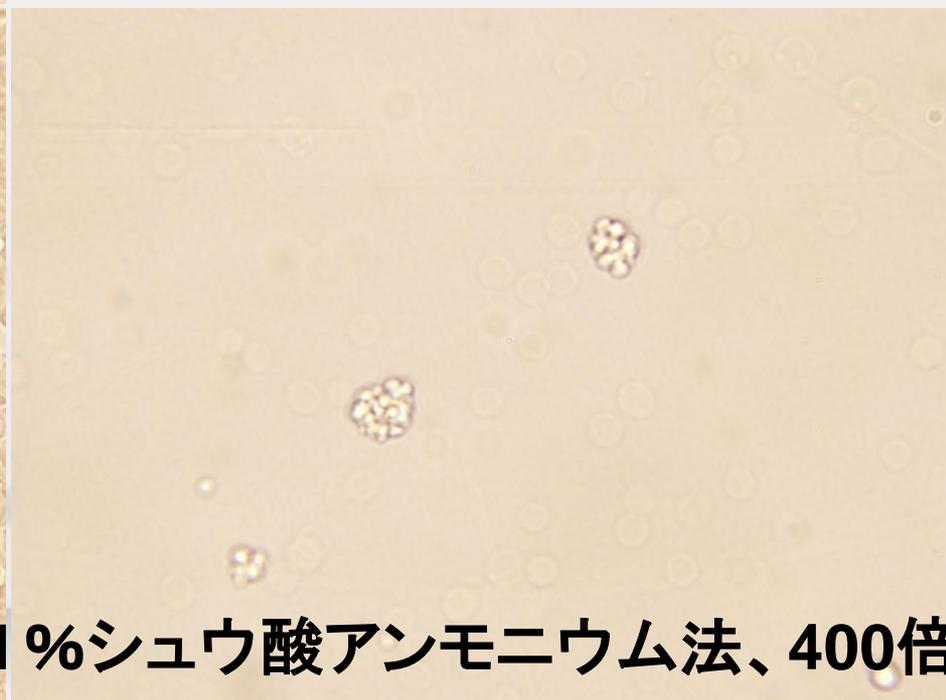
未染色、600倍



ギムザ染色、600倍



カバーガラス法、400倍



1%シュウ酸アンモニウム法、400倍

血小板凝集の確認について



血小板凝集の確認は、様々な確認方法があります。
どの方法が一番などはありません。大切なのは、
血小板凝集を疑う場合は、迅速性や運用面を考慮して、
その施設に最適な方法を理解することより、血小板の
凝集を見逃さない努力をすることが一番大切と考えます。